





利金を取める地域であります。この六千二百平方メートルの土地を  
 一万六千坪の権利で賃借契約を結ぶこととすも九千九百二十坪は  
 として数回よりみす。また地は二十坪とすも一十二坪は  
 として数回になりす。建物については保育のマーケット  
 停車場等をそろえるならば理想の土地がみつゝ、下衆福祉  
 の足あととすゝくり開くことかゝると思ひます。また  
 現に開発しようとする福生駅東はなうに下河原等にも  
 このや一果のやうな構想を取り得るはうは、下河原の開発は  
 はさめるものと思ひます。このやうな計画のもとに住宅の改築を  
 中高層化のほかるけのけの地区を区切りめた市街地が現  
 成するものと思ひます。この二果につて理事者の構想と方向  
 はけを明確にし、答を求めめるものごうに思ひます。  
 又三果は、現に進行しようとしております下河原の開発に一つの  
 汚点となつておりますと、高層の設置と進展をいふ思ひます。  
 今や私たちの日常生活は、高層とすゝる所の、及ぶには  
 ありす。このやうな食肉の生産場とすゝる手、一時は有力



は所財源となつております。たと高層の進展をいふ思ひます。現に  
 このまちの発展をいふ思ひす。確たるや入も見うめず、人件費に  
 つぐ人件費で終るのふは、はかると思ひます。反に年間  
 百万や二百万の利益を、諸施設を建てようと思ひます。  
 このまに、つて担当課長に最近のと数量と、と殺使用料の関係  
 、また二果にもはう人件費の二果につて明確なる二発表をい  
 したうに思ひます。また理事者は今後、はとと完成  
 するべくこの地区に、このやうな建物を置くことにつて明確なる  
 答を、お願ひするものごうに思ひます。この建物があるは  
 ことで下河原の開発が決まるものと思ひます。  
 質問のや三果は、このやうに、と地とに開発する理想の都  
 市造りにともは、一番指摘するものが、販賣のサービスと  
 います。これは待過改善をすゝ手かぎるべく、にあると思ひ  
 ます。現在の福生町の給水は、羽村、瑞穂チリ、号下を歩ん  
 であるやうな状態です。今後市制になると、現在の各市チリは  
 るかに下回った給水とすゝいます。今までは各町管内には



う、このアーバンスは期せず当業で補ふ参りした。市  
 の平均にありまると非常に低くはなつてゐる。子と一番  
 低いで働く単純労働者のことと、初任給が二万三百円とい  
 う給与で、一ヶ月勤務しても三万一千六百円という給与で、  
 この人たちは号俸に、おいては上の等級に、あがめ、一生を  
 のめくの中で過ごすことにほつてゐる。二のうは単純  
 労働者の人達は、運転手、給食婦、用務員、土木現業  
 者、交換手等でありま。次に一般取給でありすが、  
 現在の昇給基準は、高卒が二年、短大が三年、  
 大学が一手で昇給基準にほつてゐる。二のうはみ  
 に、北多摩各市の例と合せてみまに、三、全子  
 川、武蔵野、小金井、昭島等の各市は、高卒九千の初  
 任給は三万一千九百四十円であり、なが通生は二万五千三  
 百円でありま。高校を卒業する手目で、北多摩の各市  
 との初任給と、計算でありま。また、期せず当業  
 と、算定に、はうは、下は、い、う、さ、が、ま、う、ま、の、西、多、摩、の、市、

間の協定を、あるかに下回る支給額に、はることは、ほつて  
 り、ありま。市では、二のうの、プラン、をとるため、  
 制と、一、手に、お、く、六、短、を、二、回、を、限、度、と、く、採、用、し、て、お  
 りま。隣りの、羽、折、め、で、も、二、の、制、度、を、用、い、し、る、か、に、向、き  
 お、く、ま、ありま。なが、め、で、も、二、の、制、度、を、取、り、入、め、  
 年、六、短、を、二、回、採、用、し、た、は、う、が、市、と、平、均、に、な、つ、て、お、り、ま、  
 市、の、サ、ー、ビ、ス、何、に、に、異、議、の、点、に、は、り、新、しい、け、に、お、か、  
 しい、お、務、が、な、さ、る、か、の、と、思、ひ、ま、二、の、点、の、理、事、者、の、今  
 後の、考、え、方、に、つ、て、明、確、か、つ、確、信、あ、る、こ、ろ、を、お、願、い、し、た  
 こ、ろ、と、一、般、賃、金、を、お、願、い、し、ま、  
 議、長、(石、川、信、義、君) お、長、石、川、常、下、郎、君

議、長、(石、川、信、義、君) お、長、石、川、常、下、郎、君

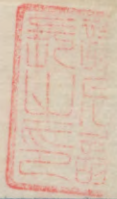
(お、長、石、川、常、下、郎、君、登、壇、)

お、長、(石、川、常、下、郎、君) 下、野、議、員、の、二、三、賃、金、に、お、答、え、申、し、お、り、ま、  
 ます。

最初、に、お、答、え、は、な、さ、れ、ま、す、が、現、在、百、十、千、二、三、  
 十、の、う、ち、の、議、員、に、高、層、化、の、二、三、賃、金、に、お、答、え、申、し、お、り、ま、  
 ます。



水のと場の現況につては、課長から答弁申してあげます。  
か、今後の方針でございますが、一まずと場を設置した  
こすこのは、今の産業の振興、要するに養豚業の増大に  
しう意味があり、場が閉業したと聞くとおそれるが、おそれる  
に農業も成ります、その目的は十二分に達したわけであ  
ります。将来の展望として、市として勝が得たというこ  
、市に諸般の物価騰貴でございます、経費費が大変  
増加して参るという事、周囲の状況が以前と全然変つて  
こつたという事、さうした見掛けから見て将来には閉鎖  
するところであるという事は常識的なことであると考えら  
れますが、その時期でございますが、さうした理由だけで  
くおのいうくは建設面におきまして、他の事業との関連  
もございます、他に悪影響をおよぼすおそれることも考  
えられます、その時期につきましては、審議中でありま  
すけれども、ほかの事業のなりゆきを見れば、さういふことには  
思います。でございますが、二年後、三年後という事は



お答えできないうちでございます。強いて申しますと  
お手紙にはよくあるという事、さういふ用におけるこ  
とがござると思ひますが、いつという事は、我々もさう申  
てあげよう、いやでございます。次に、お説の  
次の取組の給子の方でございますが、とにかくにお説の  
とおり、市よりも格段の差がござります。ただ、いま  
西多摩郡一本という事とすべし相談して参つたわけであ  
ります。希望どおり市に早稲田に参ります、現に参るとは考  
えが違つて参るわけでございます。青梅市とは三号作  
つております、さういふさういふさういふさういふさうい  
現に参るとは参ります、初めとして、さういふ住民が主人でござ  
りますので、やはり住民サーロスの力を重視することは当然のこ  
とでございます。さういふ市に参るといふ事は、単に経済上  
の理由だけでなく、精神面でのプラスが非常に多いというふう  
に私は考えております。その精神面の中に、取組の自身のプラス  
ト、誇りから生じます、自信というものは、取組の勤労態度にも



一般の營業と違つて、二ヵ月間に、子にいうく、事務好む問題  
一、障壁があると思ひますが、この点についてこそ、分課長もよく  
つくはうに、裸にはつたが、理事者にあたり、また担当  
委員合にも相当腹をわけて許さまいかほりめば、現狀の子子  
でいつたり半單位の内鎖をはりめば、ほうはい振返はほうきり  
こころをわけまごいす。あえて私が百不、二百不のことを用  
しあげましたときにもさうう意味で発表したわけでもございす。  
現在においまは本年度の帳といふのも百不たりず、ここ予算が  
はいわけまごいす。二月、三月でやついかほりめば  
ほうはいより現狀であります。その点課長おたく検討さ  
う今までの力の努力をほうきそ、その運賃にあつていたやうにい  
と思ひます。

以上で私の質問を終わります。

○謙良(石川信義君)次に番中申元一君

一番中單元一君登壇

○一番(伊豆元一君)  
私は、現代の義務教育の方法に  
ついて、教育長

関係者に二三質問をしてみました。

現代の義務教育は、全生徒が平等に明るい心づくしに教育環境の中で、良き少年は良き生徒となり、良き社会の指導者になる。一国を担う柱を育成すべき重要は教育機関であることは、衆知のとおりである。子に将来におく一人一人が明るい心遣り、まじめに公おび国の繁栄をもち、その心づくるか、なかば、教育の充実、教育長の熱意によることか、であると思ひます。

以上の観点から質問している。

当福生所が中学の中学生の「社会科」  
「現代の社会」(改訂版)の指導教材に  
つくことを希望したい。  
本年、度中、学

三年のあるクラスで、二、三頁中、九八頁のみ授業を行ない、残りの八頁、半数以上の授業が行はれぬといふ。本年度卒業生の中で、本年の二年生のあるクラスでは、中学生の社会科、日本の政治と世界（歴史）二九頁中一三八頁を授業者、半数以上の一人七頁を教えるといふと、数人の父兄より聞いてお



リます。この点について、先生を以て親の一人として、この  
 点については、得たかと思つて、おりました。調査に於いて  
 すると、相当の生徒より、その方が、明確に答へ願ひたい。  
 長は、その事柄を、おつて、あるか、か、明確に答へ願ひたい。  
 又、この点に、進んで、生徒が、中学三年の、社会科の、授業は、  
 教科書の、半、数、が、授業を、消に、つて、い、ない、状態、は、う、い、ふ、  
 他、の、生徒、との、差、が、お、二、三、つ、くる、もの、と、思、ひ、ま、す。  
 直接、お、つ、く、生徒、は、最、少、限、の、社会、科、の、授業、を、お、つ、く、  
 こと、は、い、い、と、い、ふ、こと、を、お、つ、く、  
 又、現代、社会、にお、く、生徒、に、不、便、の、念、を、お、つ、く、た、か、せ、た、こと、に、な、り、  
 ば、下、は、社会、問題、と、は、り、教育、問題、と、ある、と、思、ひ、ま、す、か、  
 教育、長、は、どの、よう、に、考、え、ま、お、り、ま、す、か、明確、に、答、へ、願、ひ、  
 たい。  
 また、や、一、中、の、中、で、よ、い、と、い、ふ、社会、科、の、教科、書、を、お、つ、く、こ、論、文、を、  
 書、か、せ、ま、つ、く、ラス、カ、ある、と、思、ひ、ま、す、か、お、り、ま、す、か、不、は、同、じ、論、手、  
 か、お、つ、く、は、り、この、よう、に、は、イン、デ、ー、か、ある、は、生徒、間、に、教育、不、信、の、



念、を、お、つ、く、た、か、せ、る、気、運、に、お、つ、く、  
 使、の、学、校、と、その、感、が、失、は、れ、ま、く、くる、の、で、は、は、り、か、う、か、と、思、ひ、ま、  
 す、か、教育、長、は、この、点、に、つ、く、この、よう、に、指導、を、お、つ、く、か、  
 明確、に、答、へ、願、ひ、たい。  
 また、授業、前、の、時間、に、非常、に、遅、い、く、教室、に、入、つ、く、る、先、  
 生、が、い、る、と、思、ひ、ま、す、か、お、り、ま、す、か、授業、時間、不、に、処、理、し、は、り、か、  
 ば、は、り、は、い、問題、が、あ、つ、く、遅、刻、に、た、か、か、また、その、よう、に、は、こ、  
 が、生徒、に、お、つ、く、遅、刻、を、遅、る、理由、は、な、か、か、か、明確、に、こ、  
 り、は、は、り、は、い、と、思、ひ、ま、す、か、この、点、に、つ、く、教育、長、は、その、  
 実、態、を、お、つ、く、ま、い、る、か、か、か、お、願、ひ、たい、に、お、つ、く、  
 以上、三、点、に、つ、く、遅、刻、を、遅、る、答、へ、を、願、ひ、ま、す、  
 〇議長(石川信義君) 教育、長、(竹田信二君) 自、席、か、う、お、許、こ、を、お、つ、く、た、か、ま、す、か、  
 〇教育、長、(竹田信二君) 自、席、か、う、お、許、こ、を、お、つ、く、た、か、ま、す、か、  
 子、の、二、三、点、に、お、つ、く、ま、い、る、か、か、お、願、ひ、たい、に、お、つ、く、  
 たい、に、子、中、里、議員、を、お、つ、く、二、三、指摘、が、あ、つ、く、た、と、お、り、  
 現在、中、学、にお、つ、く、使用、を、お、つ、く、社会、科、の、教科、書、は、内、容、を、お、

二つに分けると、民主政治、これは主として憲法論といひ  
 ます。それと経済生活、社会生活、世界と日本の関係  
 階に分けられるわけがあります。  
 二つの階とあり、社会科の学習というものは非常に内容が  
 広く、かつ内容に富みすぎ、日本史とか東洋史、世界史  
 まで含みすぎ、あります。また社会科の学習はものごと  
 とと史料的に見る研究するというのが社会科の持味でござい  
 ます。したがって、このように豊富に内容を一手で細かく指  
 導するところについては、大変むづかしいといひます。そこで  
 各都府におきましては、各教科につきましての学習指導要領  
 というものがございまして、各先生方はこの指導要領をま  
 にいたしまして、教科の終末を定め、そして生徒に理解せよという  
 に教育計画、指導計画を立ててございまして、指導にあたりま  
 いる。この現在のやり方でございまして、二つの参考までに指  
 導方法を用いてございまして、大体三つの方法があるわけでござ  
 います。



一に、つぎの二つは、体系的に細かく指導する方法がござい  
 ます。これは特に算数とか国語、英語というものが、よく表  
 られている。



二の方法としましては、構造に方式というものがござい  
 ます。これは最初の基礎的な部分を中心にして、カリと身につけ  
 る、あと、カリと身をつくる問題の部分で、プログラムのよう  
 なやりと、読むはり、そして総合的に指導するというのが、構造に  
 方式でございまして、これは社会科とか理科の教科書に使  
 われる方式でございまして、また生徒が自分で勉強をする場合にお  
 きます。その問題で、読むはり、そして学習するということ、  
 使用とある教科書に書いてございまして、

三番目といたしましては、プログラム方式というものがござい  
 ます。これは生徒に好まれる、例えは、何やら何やらあることと生徒  
 自身に学習させ、そして問題点の部分があり、そして、  
 自分で発言する指導する、という方法があるわけがござい  
 ます。